



子どもの事故を防ぐために

幼児期から小学生にかけて、子どもの死亡原因の上位を占めるのは不慮の事故です。死に至らないまでも、幼児の事故はたくさん起こっています。しかしそのほとんどは親の注意や、子どもに安全のしつけをすることで防ぐことができます。子どもの成長とともにどんな事故が起こりやすいのかをよく知り、身の回りを子どもの目線で再点検しましょう。

起こりやすい事故と予防ポイント

【窒息・誤飲事故】

- 赤ちゃんの顔に物がかぶさり窒息する。
- 食べ物やおもちゃなどの誤飲で窒息する。
- たばこ、ボタン電池、化粧品などの誤飲。

赤ちゃんのそばには、口や鼻を覆ったり首に巻き付いたりする物は置かないようにしましょう。気管支に入りやすい硬い豆やナッツ類は、3歳ごろまでは食べさせないようにしましょう。危険な物は全て子どもの手の届かない、見えないところに保管しましょう。

【水まわりの事故】

- 入浴時やプールなどで溺れる。
- 洗濯機などによる事故。

入浴やプールで遊ぶときは、子どもから目を離さないようにしましょう。ドラム式洗濯機は必ずふたを閉め、チャイルドロック機能を使うか、ふたにゴムバンドを掛けるなどの工夫をしましょう。

【やけどや転落による事故】

- ストーブ、アイロンなどでやけどする。
- ベッドやソファ、階段などから転落する。

危険な物は遠ざけ、柵をつけるなどの工夫をしましょう。ベビーベッドの柵は必ず上げ、赤ちゃんを一人でソファなどに寝かせないようにしましょう。

【交通事故】

- チャイルドシートを使用しないことによる事故。
- 道路上での事故。

6歳未満の乳幼児を車に乗せるときは、チャイルドシートを正しく装着しましょう。子どもに交通ルールや交通事故の危険について教えましょう。

【健康管理課保健師】